

平成28年度富山市地域水田フル活用ビジョン

富山市農業再生協議会

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域の水田利用は、主食用米が64%（平成26年度）を占めている。その一方で、担い手を中心に大麦、大豆、そば、飼料作物などの作付けを進めることにより、不作付地を8.9%に留め水田のフル活用に努めている。また、生産性向上を図るため、担い手による団地化や土地利用集積等を推進しており、大麦、大豆、そば、飼料作物の団地化・土地利用集積の取組は73.0%（H26）となっている。

しかし、今後より一層、主食用米の需要の減少や農家の高齢化に伴う農家戸数の減少が見込まれ、不作付地の拡大も懸念されることから、転作作物の作付けを促進するとともに、担い手による団地化や土地利用集積等により生産性の向上を図り、水田のフル活用を進める必要がある。

2 作物ごとの取組方針

富山市の約1.2万haの水田について、適地適作を基本とし、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

(1) 主食用米

「ほおぼる幸せ。富山米」をスローガンとして、売れる米づくりの徹底によって米の主産地としての地位を確保するため、「高温に打ち勝つ米づくり」、「低コストな米づくり」、「安全・安心な米づくり」に向けた総合的な技術対策をしっかりと進めるとともに、前年の需要動向や集荷業者の意向を勘案しつつ、需要に即した米の生産を行う。

また、中食・外食のニーズに対応した業務用米の生産と安定取引の推進などにより販路拡大を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

産地交付金の活用により多収性品種の導入等を推進し、低コスト化に努め、収益性を確保しながら需要に応じた取組拡大を図る。

イ 加工用米

産地交付金の活用により複数年契約の取組等を推進し、地元実需者等との結びつきを強化し、生産の拡大を図る。

ウ 備蓄米

産地交付金の活用により備蓄米の取組を推進し、水田フル活用を図る。

エ その他新規需要米（米粉用米、WCS用稲）

水田フル活用に向け新規需要米の取組を推進し、低コスト化に努めるとともに、地元需要者の需要に即した生産を行う。

(3) 麦、大豆、飼料作物

産地交付金の活用により担い手による土地集積を進め、団地化及びブロックローテーションを継続することにより、団地としての排水効果の発揮など生産性向上に努め作付面積を拡大する。

また、麦、大豆については、さらなる生産性向上に向け麦あと大豆作を進めるとともに、地力増進作物や堆肥と組み合わせた作付けにより収量・品質の向上を目指す。

小麦については、地元の食品メーカーや製粉会社からニーズがあることから、パン生地用等の小麦の栽培について検討する。

(4) そば、なたね

地元の製粉業者との連携や直売活動など地域の実需者との契約に基づき、現行の作付面積を維持する。また、産地交付金の活用により、団地化や担い手への集積を推進し、生産性の向上に努める。

(5) 野菜等の地域振興作物

産地交付金の活用により、以下の推進品目を中心に導入を推進し、担い手等の経営安定化が図られるよう誘導する。

- ① 1億円産地づくりを目指す特定品目の作付けを拡大する。

JA 富山市、JA なのはな…ばれいしよ

JA あおば…にんじん

JA 山田村…りんご

- ② 「白ねぎ」、「軟弱野菜」、「大カブ」、「トマト」、「切花」を振興品目として拡大する。

- ③ 薬品メーカーとの契約による「薬用作物」の作付面積を拡大する。

- ④ 「えごま」の作付面積を拡大する。

(6) 地力増進作物

地力の維持・向上を図るため、実情に応じた地力増進作物の栽培を推進する。

(7) 不作付地の解消

今後5年間で、現行の不作付地（調整水田・自己保全管理）824.8haの約2割（165ha）を非主食用米等の作付けにより解消を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

別紙のとおり

4 平成30年度に向けた取組及び目標

別紙のとおり

5 平成28年度特別交付金

別紙のとおり

3 作物ごとの作付予定面積

単位: ha

| 作物 | 平成25年度の 作付面積 (うち二毛作) | 平成28年度の 作付予定面積 (うち二毛作) | 平成30年度の 目標作付面積 (うち二毛作) |
|------------|----------------------------|------------------------------|------------------------------|
| 主食用米 | 7,790.9 | 7,227.0 | 7,219.0 |
| 加工用米 | 251.9 | 179.0 | 200.0 |
| 備蓄米 | 526.7 | 708.0 | 800.0 |
| 米粉用米 | 28.4 | 3.0 | 10.0 |
| 飼料用米 | 39.9 | 100.0 | 150.0 |
| WCS用稲 | 51.2 | 127.0 | 130.0 |
| 麦 | 259.6 (143.0) | 305.0 (143.0) | 350.0 (160.0) |
| 大豆 | 694.5 (11.1) | 705.0 (14.0) | 800.0 (19.0) |
| 飼料作物 | 109.4 (28.3) | 79.0 | 115.0 |
| そば | 115.7 (11.7) | 130.0 (41.0) | 110.0 |
| (参考)そば(畑地) | 14.9 | 22.0 | 15.0 |
| なたね | 2.0 | 2.2 (2.1) | 6.3 |
| その他地域振興作物 | 184.3 | 180.0 (1.0) | 245.0 |
| 雑穀 | 2.7 | 11.0 | 15.0 |
| 地力増進・景観形成 | 237.6 | 82.0 (23.0) | 150.0 |

4 平成30年度に向けた取組及び目標

単位: ha,%

| 取組 番号 | 対象作物 | 取組 | 分類 | 指標 | 平成25年度 (現状値) | 平成28年度 (目標値) | 平成28年度 支援の有無 |
|----------|------|--------------------------------------|----|------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 1 | 麦、大豆 | 団地化や担い手 への農地利用集 積 | イ | 実施面積 | 704.7 | 722.0 | 有 |
| | 麦 | | | | 89.2 | 122.0 | |
| | 大豆 | | | | 615.5 | 600.0 | |
| | 飼料作物 | | | | 77.5 | 78.0 | |
| 2 | 麦、大豆 | 担い手による麦 あと大豆の組合 せによる二毛作 の取組 | イ | 実施面積 | 154.1 | 156.0 | 有 |
| | 麦 | | | | 143.0 | 144.0 | |
| | 大豆 | | | | 11.1 | 12.0 | |
| 3 | 大豆 | 堆肥施用あと大豆の組 合せによる取組 | イ | 実施面積 | 79.0 | 82.0 | 有 |
| 4 | 大豆 | 担い手による排水対策 や狭畦密植栽培などの 生産性向上の取組 | イ | 実施面積 | 11.1 | 18.6 | 有 |

※「分類」については、要綱(別紙11)の2(5)のア、イ、ウのいずれに該当するか記入してください。(複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか一つ記入してください。)

ア 農業・農村の所得増につながる作物生産の取組

イ 生産性向上等、低コスト化につながる作物生産の取組

ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

5 平成 28 年度特別交付金

| 作物区分 | 野菜 | 花き・花木 | 果樹 | 雑穀 (えごま) | その他 (薬用作物) | 合計 |
|---|--------------------|------------------|----------------|------------------|------------------|--------------------|
| 平成 28 年度 作付計画面積 (うち特別交付金) (ha) | 150.23 (148.74) | 24.05 (24.05) | 3.79 (0.00) | 11.66 (11.66) | 2.87 (2.87) | 192.60 (187.32) |
| 平成 29 年度 作付目標面積 (うち特別交付金) (ha) | 157.45 (155.96) | 25.80 (25.80) | 3.90 (0.00) | 12.40 (12.40) | 3.24 (3.24) | 202.79 (197.4) |
| 拡大割合 (うち特別交付金) (%) | 4.80 (4.85) | 7.27 (7.27) | 2.90 (0.00) | 6.35 (6.35) | 11.29 (11.29) | 5.29 (5.38) |

※「平成 28 年度作付計画面積」欄については、平成 28 年度産地交付金(平成 28 年度特別交付金を含む。以下同じ。)で支援する高収益作物の面積を記入して下さい。()内には、そのうち、平成 28 年度特別交付金による支援面積を記入して下さい(いずれも実面積)。

※「平成 29 年度作付目標面積」欄については、平成 28 年度産地交付金で支援する高収益作物の平成 29 年度予定面積を記入して下さい。()内には、そのうち、平成 28 年度特別交付金により支援する取組の平成 29 年度予定面積を記入して下さい(いずれも実面積)。

平成 28 年度特別交付金により支援する取組の作付目標面積設定の考え方
(拡大の根拠となる情報や地域ごとの内訳等を記載)

1 野菜、花き・花木、果樹

各地域の 1 億円産地づくりを目指す品目を中心に、白ねぎ、軟弱野菜、切花等の振興品目の作付拡大を図る。また、各農協の直売施設を活用し直売用野菜の作付拡大を図る。

・あおば農協(1 億円産地づくり：にんじん)

大麦収穫後の耕地を活用した二毛作の導入・拡大により作付面積の拡大を図る。

育苗後のパイプハウスを活用した切花の作付を行う。

・なのはな農協(1 億円産地づくり：ばれいしょ)

あわせて軟弱野菜とキャベツなどの加工用野菜の作付面積を拡大する。

・富山市農協 1 億円産地づくり：ばれいしょ)

あわせてにんじん、とうもろこしを導入することにより作付面積を拡大する。

・山田村農協(りんご)

・振興品目…白ねぎ、軟弱野菜、大かぶ、トマト、切花

2 雑穀(えごま)

機械化による作業時間の短縮と効率化、生産から加工までを行う 6 次産業化により作付面積の拡大を行う。

3 その他(薬用作物)

薬用作物の需要に合わせ、作付を拡大する。